



「しらぬひ風景海道」登録証交付式・交付記念イベントの様子



# 目次

- 「しらぬひ風景海道」日本風景街道九州ルート

登録証交付式・交付記念イベント 開催報告・・・・・・・・・・ 1

第1部 日本風景街道登録証交付式

第2部 交付記念イベント

- 「第1回 日本風景街道 未来ビジョン共創会議」 開催報告・・・・・・・・・・ 4

(1) 設立趣旨

(2) これからの取組に関する道路局からの提案

(3) 学生意見の把握



# 「しらぬひ風景海道」登録証交付式・交付記念イベント 開催報告

令和8年3月11日に「しらぬひ風景海道」が新たに誕生しました。本ルートは全国で148番目、九州では17番目の登録ルートとなります。ルートの登録を記念して、5月31日、金子大臣出席のもと、「日本風景街道登録証交付式・交付記念イベント」が熊本県宇城市で開催されました。

## 第1部 日本風景街道登録証交付式

### 開催概要

#### 第1部 日本風景街道登録証交付式

[挨拶] 九州風景街道推進会議 石原会長  
国土交通省 金子大臣

[登録証交付] 登録証交付 & 記念撮影

[話題提供] 国土交通省九州地方整備局 垣下局長

[閉会挨拶] 九州風景街道推進会議 玉川委員長

○登録証交付の様子 九州風景街道推進会議の石原会長から、「しらぬひ風景海道」の牧代表へ登録証が交付されました。



### ○挨拶



九州風景街道推進会議  
石原会長

「しらぬひ風景海道」は、不知火海沿岸等の景観資源、歴史・文化資源を有し、地域の皆様が継続的に活動されており、日本風景街道の登録要件を満たすことを確認しました。

この登録をきっかけに、地域活動の活発化、連携・交流の深化がますます深まること、そして、来年20周年を迎える九州風景街道の未来を担う存在としての活躍を期待しています。

### ○話題提供



九州地方整備局  
垣下局長

皆様のご尽力に経緯と感謝を表します。来年20周年を迎える日本風景街道について、国土交通省では更なる価値向上を目指して検討を進めており、「日本風景街道未来ビジョン共創会議」にて観光振興や環境保全、地域産業の創出など地域課題解決や魅力向上に向けた議論を行っています。

今後も、地域の皆様と連携しながら、風景街道を通じた地域づくりを支援してまいります。

### ○閉会挨拶



九州風景街道推進会議  
玉川委員長

今回の登録は、地域の魅力と皆様の努力が評価されたもので大変喜ばしく、水俣高校など若い世代を含む主体的な活動にも心強さを感じています。

日本風景街道は来年20周年を迎え、能登半島地震の被災地では、復興を支える取組に国や自治体が伴走するなど、その役割は更に広がりつつあります。

国土交通省では、そのような役割を担うための体制や機能強化などを検討するため、有識者会議での議論を重ね、支援をますます充実してまいります。

今後「しらぬひ風景海道」には、天草、さらには球磨川沿いを遡るラインとして、広域的な展開の可能性がります。これが実現すれば、九州を代表する有力な風景街道の一つへと成長することが期待されています。

皆様の強い熱意に敬意を表するとともに、「しらぬひ風景海道」のさらなる発展と今後の活躍を期待しています。



国土交通省 金子大臣

## 第2部 交付記念イベント

### 開催概要

#### 第2部 交付記念イベント

[挨拶] しらぬひ風景海道 牧代表

[しらぬひ風景海道のデザインについて]  
しらぬひ風景海道 田中ディレクター

[意見発表] NPOしらぬいの風、ビーエス広告社、  
ななうらステーション、宇土市観光物産協会、  
宇城市観光物産協会、水俣高校、津奈木町

[来賓講評] 水俣市長、宇土市長、宇城市長、氷川町長、  
津奈木町長、九州地方整備局長、  
九州風景街道推進会議会長および委員長

[活動宣言] NPOしらぬいの風、肥薩おれんじ鉄道、  
フットパス芦北

- 意見発表** 風景街道パートナーシップ「みんなでつくろう しらぬひ風景海道」は、現在56団体で構成されています。今回は、その中から7団体が代表として、登壇し、各団体の活動内容や今後の抱負等について意見発表を行いました。

NPOしらぬいの風	「みんなでつくろう しらぬひ風景海道」の活動方針
ビーエス広告社	情報誌「やつしろぶれす」、フットパスの取組
ななうらステーション	肥薩おれんじ鉄道の有人駅運営と地域づくりの取組
宇土市観光物産協会	令和7年度からの新事業「UTO CRAFT」の取組
宇城市観光物産協会	市内の地域資源やナショナルサイクルルートの紹介
水俣高校	しらぬひ風景海道と連携した探究学習の取組
津奈木町	地域文化の継承と芸術文化を活かした地域づくりの取組

- 来賓講評** 意見発表に対して来賓による講評が行われ、今後の活動への期待や応援の言葉、ルートとの連携・協働に向けたご意見などが寄せられました。

- 活動宣言** 本日を皮切りに「100日プロジェクト」が始動しました。一人一人の「やってみたい」「関わってみたい」という思いをシールアートとして見える形にし、SNSや展示等を通じて発信することで、共感や活動の輪を広げていくことが目指されています。そこで壇上にて3団体が活動宣言を行いました。

#### 肥薩おれんじ鉄道

鉄道と道路は地域を支える社会基盤であり、連携することで地域や人のつながりを強め、地域の価値を高めることができる。これからも地域の活性化と、美しい風景や人の思いを守り・育てていきたい。

#### フットパス芦北

歩く速度だからこそ見える風景や地元との交流が地域の魅力の発見につながる。人と人、人と地域を歩いてつなぐ活動がフットパスである。皆さんも自分の足で地域を歩き、新しい魅力を発見しましょう。

#### NPOしらぬいの風

道を通じて地域の魅力を点から線、面へとつなぎ広めていく。美化活動・情報発信・高校連携・フットパス・体験型観光などを通じて地域の皆様とつながり、楽しく語り合える風景街道を目指したい。



### ○挨拶



しらぬひ風景海道  
牧代表

「しらぬひ風景海道」の宇土から水俣までの豊かな自然、歴史、文化、そして人々の温かな営みが認められ、本日皆様方とこのような素晴らしい日を迎えることができ、大変嬉しく思います。これからは地域の皆様、企業、団体、行政など56団体のパートナーシップの皆様とともに、全国に誇れる道となるよう、一步一步進んでまいります。

### ○しらぬひ風景海道のデザイン



2 しらぬひ風景海道  
田中ディレクター

「しらぬひ風景海道」では、道路の白線と不知火海に沈む夕日をテーマカラーとして、特定のロゴデザインは定めず、各地域の工夫やアイデアを活かしながら、白とオレンジの線を組み合わせることで自由に形にしていけることを大切にします。



しらぬひ  
風景海道

Scenic Byway SHIRANUI

# 新規ルート「しらぬひ風景海道」の概要

## ■新規ルートの概要

### 活動範囲

熊本県南に位置する4市3町からなる広域ルート  
(宇土市、宇城市、八代市、水俣市、  
氷川町、芦北町、津奈木町)

### 中心となる道路

国道3号、国道57号、国道266号

### 地域資源

宇土・宇城地域、  
八代地域、  
芦北・水俣地域  
に複数有り



### 実施予定の活動内容

#### ①地域活性化

地域のつながり、  
地域とのつながり、をつくる

#### ②観光振興

たのしくかたる  
仕かけをつくる

#### ③美しい国土景観の形成

美しいしらぬひの  
風景をつくる

#### 次世代育成・元気な地域づくり



水俣高校の生徒と連携し探求学習による観光のモデルコースを作成

#### フットパス・ウォーキング



フットパスコースを活用し、地域の魅力を発信

#### 美化・清掃活動



国道3号での花植・清掃活動の様子



### 宇土・宇城地域

- ・ 田園風景と不知火海の自然景観
- ・ 温暖な気候を利用した花き栽培や果樹栽培が盛ん
- ・ 三角西港、水島などの観光スポットが点在

### 八代地域

- ・ 八代平野で営まれる農業
- ・ 高速道路・新幹線・国際貿易港を有する利便性を活かした工業が盛ん
- ・ 日奈久温泉などの観光スポットが点在

### 芦北・水俣地域

- ・ 不知火海で獲れる太刀魚などの新鮮な海産物や、デコポン等の柑橘が有名
- ・ 農業では環境に配慮した栽培方法を選択





# 「第1回 日本風景街道 未来ビジョン共創会議」開催報告

国土交通省道路局では、日本風景街道が2027年に創設20周年を迎えるにあたって、これからの取組の方向性について、検討を進めています。

この度、有識者や関係機関等の多様な知見を踏まえ、風景街道の価値向上と持続的発展に向けた方策について検討を行い、今後の10年間を見据えた施策展開につなげることを目的として、「日本風景街道 未来ビジョン共創会議」を設置し、令和8年5月25日(月)に第1回目を開催しました。なお、ルート関係者の方々など96名のweb傍聴がありました。

詳細は、日本風景街道HP (<https://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/>) で公開しています。

## 水野環境安全・防災課長

- 日本風景街道を20年続けてきて、世代交代や行政支援の強化など、様々な課題が浮き彫りになってきた。社会情勢の変化に応じて、求められるものや皆さんに取り組んでいただきたいことも増えてきたところ。
- 「能登半島絶景海道」では、地元の積極的な取組に対して、国土交通省、県、自治体、コミュニティの皆さんも支援を差し上げている。今後、防災も考え、地域の絆も大事にしながら、風景街道を発展させていただきたい。

- この会議では、年内に一定の目標と方針を立てたい考え。有識者の皆さま、今後は学生の方々からのご意見を聞いていきたい。また、現地で活動されている皆さまからのご意見をいただいて、良い取りまとめにしていきたい。



## 石田座長

- 風景街道との関わりで言えば、まず、北海道でシーニックバイウェイが立ち上がるときに、制度検討委員会の座長を務めさせていただいた。しばらく経って、本省の道路局でも全国展開したいということで、日本風景街道戦略会議のメンバーもさせていただいた。
- 20年以上、皆さんと一緒に取り組ませていただいている、風景街道の大事なところはこれまでに色々あったのは確か。当時の話も含めて、議論に参加させていただきたい。



## (1) 設立趣旨

- 日本風景街道は、地域住民、企業、NPO等の多様な主体が自主的に連携し、道路を軸として地域の自然、歴史、文化、産業等の魅力を磨き上げ、交流の促進や地域活性化に寄与してきた取組である。その根幹は、各地域の創意工夫と主体性にあり、これまで全国各地において特色ある活動が積み重ねられてきた。
- 一方で、近年の社会環境の変化、人口減少・高齢化の進行、観光需要の質的变化、さらには大規模災害の頻発等を背景に、地域を取り巻く課題は一層複雑化している。とりわけ、能登半島絶景海道における震災後の復興の取組においても見られるように、風景街道は復興を支える重要な役割を果たしている。このように、風景街道には、景観形成や観光振興にとどまらず、災害復興、環境保全、二地域居住の推進、地域産業の創出など、防災、地域経済、環境といった幅広い政策課題に貢献する役割が期待されている。
- このような状況を踏まえ、今後の日本風景街道は、地域主体の自主性を尊重しつつ、国及び地方公共団体等がより明確に支援・伴走する体制を強化し、「もっと繋がる風景街道」へと発展させていくことが求められる。
- 本会議は、こうした認識の下、有識者や関係機関等の多様な知見を踏まえ、風景街道の価値向上と持続的発展に向けた方策について検討を行い、2027年に20周年を迎える日本風景街道について、今後の10年間を見据えた施策展開につなげることを目的として設置する。

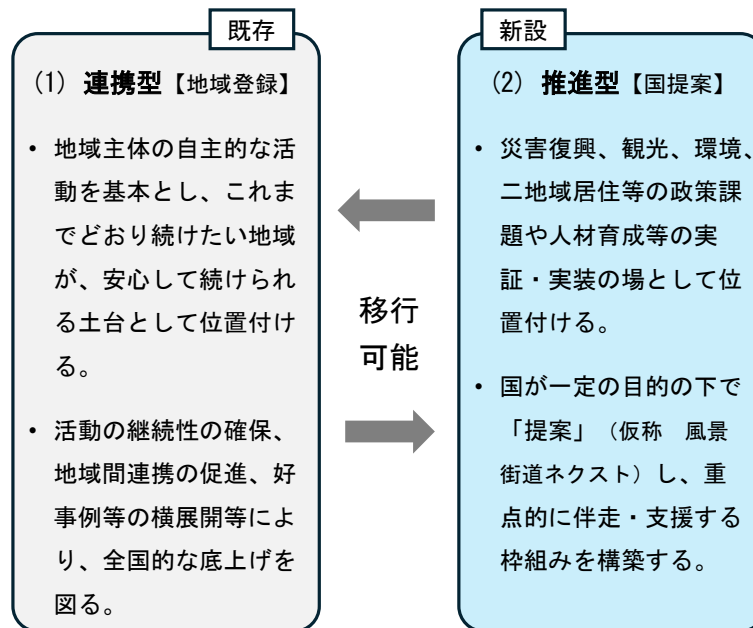
### ○委員名簿

石田 東生	筑波大学名誉教授
川上 真生子	株式会社 キッチンハイク取締役
真田 純子	東京科学大学大学院 環境・社会理工学院教授
羽鳥 剛史	愛媛大学社会共創学部 環境デザイン学科教授
原文宏	(一社) シーニックバイウェイ支援センター理事・事務局長
三谷 繭子	株式会社Groove Designs 代表取締役社長

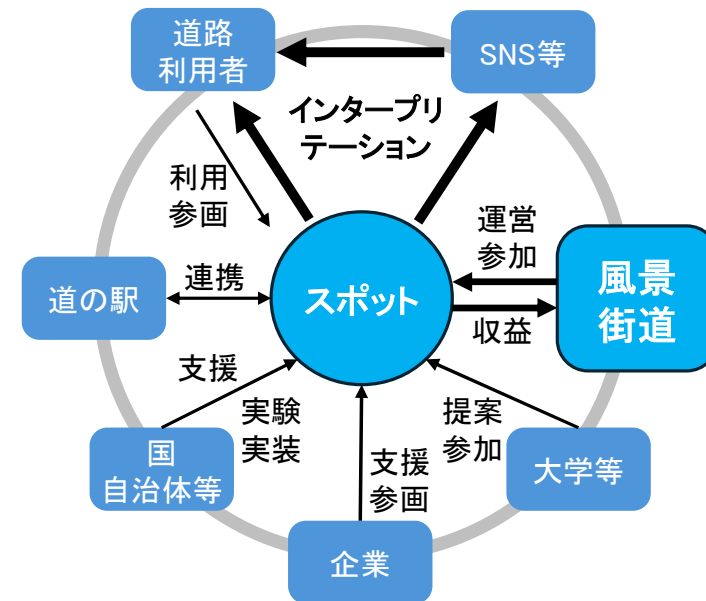
※敬称略、五十音順

## (2) これからの取組に関する道路局からの提案

- 災害復興、観光振興、環境保全、二地域居住、地域産業の創出等の政策課題とも連動した取組を充実して、「もっと繋がる風景街道」へと発展。この推進のため、国・地方公共団体等が明確に支援・伴走する体制を強化。
- 具体的には、2つの枠組み「連携型(地域登録・既存)」と「推進型(国提案・新設)」を、相互に補完しながら推進することを提案。
- 風景街道の価値や活動の可視化・インタープリテーション機能を強化するために、簡易パーキングなどの既存の道路空間を有効活用したスポット整備の推進を提案。単なる情報掲示にとどまらず、自然・歴史・暮らし・産業の背景を伝える拠点とし、道の駅、大学、企業等と連携し、継続的な進化と持続可能な運営を推進。
- 風景街道の持続的発展を支えるため、人材育成及び知の基盤の強化も推進。



推進の基本構造(連携型と推進型)



活動の可視化・インタープリテーション機能の強化

## (3) 学生意見の把握

- 本年度は大学生・大学院生を対象に、魅力の再発見や将来展開の提案を目的としたワークショップの実施を予定しており、参加大学を募集。
- このワークショップは、学生の提案が会議で議論され、優れた内容は施策に活かされるとともに、参加者は自らの提案が社会実装につながる可能性を持つ実践的な政策形成に関わることが可能。

### ○募集概要

**日本風景街道 今後の10年間を見据え  
「風景街道×大学」ワークショップの参加大学を募集します！  
～若い世代が関わり・使い・誇れる仕組みとして具体化する～**

次の世代の生活感覚・価値観から、「これから10年の日本風景街道が、若い世代にとって、“関わりたい・使いたい・誇りたい仕組み”になるための具体像を描くこと」を目的に大学生ワークショップの実施を予定しており、参加大学を募集します。

### ○期待する役割

- 次世代の参加者・担い手を引きつける魅力の可視化
- 発信・体験・ストーリーの再設計  
(若者の日常メディア感覚)
- 将来の仕事・学び・暮らしにつながる風景街道の提示
- 大人の会議では出にくい前提破壊・率直な疑問の提示

### ○応募期間・応募方法

- 応募期間  
令和8年6月12日（金）～7月10日（金）17時まで
- 応募方法  
提出先に提出書類を電子データにて送付すること  
※募集要領や様式などの応募方法の詳細は、以下の国土交通省HPをご覧ください。

<https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/future-vision/index.html>

### ○問い合わせ先

- 道路局 環境安全・防災課  
課長補佐 高城（たかぎ）、係長 大船（おおふね）

代表：03-5253-8111（内線38222、38223）  
直通：03-5253-8495  
Mail：hqt-fukeikaido-mirai(at)gxb.mlit.go.jp  
※(at)は @ に置き換えてください。